B 12 茨城県本場結城紬織物協同組合

日本の文化遺産・伝統的地場産業である結城紬の技の伝承を図る

住　　所	（〒307-0001）茨城県結城市結城3018-1　結城市伝統工芸コミュニティセンター内		
電話番号	0296-32-1108	U　R　L	―
設　　立	昭和33年3月	出　資　金	6,057千円
主な業種	本場結城紬織物業	組合員数	69人

◘ 背景と目的

当産地は、社会的分業体制が成り立っており、主要な部門ごとに原料、織物、染色、検査、卸商と５つの組合が組織化されている。このような体制から、人材の育成･確保は各組合がそれぞれ行ってきた。産地を統括しているのは卸商組合であり、当組合は卸商(縞屋)への依存が強い。それが当組合独自の取組みを狭めてきた面は否めない。

◘ 事業・活動の内容と手法

本場結城紬は40以上ある工程をすべて「手仕事」で行うことが特徴で、昭和31年に「糸つむぎ」「絣くくり」「地機織り」の３工程が重要無形文化財の指定を受けた。昭和52年には伝統的工芸品の指定を受け、さらに、平成22年には本場結城紬の伝統技術が認められ、ユネスコ無形文化遺産に登録された。一方、日本人の「着物離れ」や生産者の高齢化により、生産規模が縮小し、後継者の確保も困難となっている。こうした傾向に危機感を抱いた当組合は、事業承継と後継者確保・育成事業に取り組んできた。

現在、当組合では、毎年開催している結城紬作品展の会場で「機織り体験フェア」を実施するほか、地元高校のつむぎ部に伝統工芸士である講師を派遣して技術指導する「つむぎ教室」(月３回)や、２年生全員を対象にした「機織り体験」を実施している。さらに、県の繊維工業指導所の「機織り後継者育成研修」に講師を派遣して技術指導を行うなど、ユネスコ無形文化遺産に登録された伝統技術を後世に伝える活動を積極的に行っている。

今後は、機織り以外の工程、特に、男性型熟練技である「絣くくり」と「下ごしらえ」工程でのさらなる人材確保･育成が望まれる。

◘ 成　　果

繊維工業指導所での熱心な技術指導は「織り手」の確保につながり、定員の２倍以上の織り手志望者を得ている。地元高校での「つむぎ教室」や高校２年生全員への「機織り体験」は将来の「織り手」確保が期待できる。

また、組合員の結束力とオープンな関係によって産地の伝統技術が保持継承されてきており、その特性を活かした新商品開発をはじめ、当組合と卸商組合が連携を強化しながら、産地一丸となって市場拡大とブランド力向上のための様々な仕掛けを行うことで、産地活性化への期待が高まる。

伝統工芸士による「織り手」への技術指導

地元高校での「つむぎ教室」の開催

事業・活動推進のキーファクター

key factor

産地内の生産者間の結束力とオープンな関係によって産地の伝統技術が保持継承されてきており、そうした下地のもと、新たな担い手の確保・育成につながっている。